

平成27年度 第2回 帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1 日時

平成27年9月4日（金） 19:00～21:00

2 場所

帯広市役所 10階 第6会議室

3 議事概要

(1)協議事項

・施策評価表(案)について

資料3のうち「4-1-2 廃棄物の資源化と適正処理」以降の施策について協議を継続。
委員からの主な意見は、別紙のとおり。

平成27年度 第2回 帯広市総合計画策定審議会における主なご意見

別紙

ページ	施策	区分	主なご意見
118	4-1-2 廃棄物の資源化と適正処理	「2. 成果指標の実績値に対する考え方」	○「市民1人当たりのごみの排出量」は実績が目標を下回ることが望ましいため、「目標値を下回っています」との表現に違和感を感じる。「目標値に達していない」など別の表現にしたほうがよいのではないか。
120	4-1-2 廃棄物の資源化と適正処理	「5. 施策の総合評価」	○生ごみ堆肥化容器は、生ごみの減量に効果的であり、費用対効果の面からも政策効果が高いと感じる。昨年度同様の表現になっているが、環境モデル都市として、もう少し力を入れた表現としてはどうか。
120	4-1-2 廃棄物の資源化と適正処理	「6. 施策の課題と取り組み方向」	○町内会での集団回収や各ごみステーションにおいて、市が回収する前に資源ごみを回収してしまう業者がおり、困っている状況であることから、課題として整理すべきではないか。
126	4-2-1 公園・緑地の整備	「5. 施策の総合評価」	○剪定枝の無料受け入れについて、実施場所や実施時期など、より詳細な情報を入れた方が、市民へのPRになるのではないか。
126	4-2-1 公園・緑地の整備	「6. 施策の課題と取り組み方向」	○帯広の森には、剪定枝の不法投棄などもあり、そのことから、市民が剪定枝の処分に困っていることが伺える。剪定枝の無料受け入れについては、良い取り組みだと思うので、是非続けて欲しい。 ○剪定枝の無料受け入れだけでなく、高齢化なども踏まえ、受け入れ場所に届けられないような人への対応も、今後検討して欲しい。
138	5-1-1 住環境の充実	「2. 成果指標の実績値に対する考え方」	○成果指標の考え方の下から2行目の「住環境の充実につながる」という表現は、紛らわしいので削除したほうがよい。
144	5-1-2 魅力ある景観の形成	「6. 施策の課題と取り組み方向」	○「長い期間に渡る市民生活」が、景観の形成につながるというのがイメージしづらい。「長い期間に渡る市民生活」は、削除しても、意味がつながるのではないかと。 ○景観を「気軽に楽しむ」という表現に違和感がある。景観は、気軽に楽しむものなのか。 ○防風林の並木を作るなど、重点整備により、景観の名所をつくるような取り組みをしても良いのではないかと。 ○帯広の景観の良さが、市民に伝わっていない部分があると思う。また、地域内外の人から意見を聞きながら、景観の良いところをリストアップしても良いのではないかと。
152	5-2-1 道路網の整備	「2. 成果指標の実績値に対する考え方」	○「特殊舗装」は、増えると良い指標のように見えるため、誤解を与えやすい。枠外に注釈をつけたほうが良い。

平成27年度 第2回 帯広市総合計画策定審議会における主なご意見

別紙

ページ	施策		区分	主なご意見
162	5-2-3	地域情報化の推進	「6. 施策の課題と取り組み方向」	○「オープンデータ」について、市民がわかりやすいよう、注釈を付けるなど解説が必要ではないか。
168	6-1-1	学校教育の推進	「5. 施策の総合評価」	○成果指標の「学校給食における地場産野菜の導入率」はc判定となっているのに、目標値を下回った要因が記載されているだけで、以降に記載が無い。指標の判定結果を踏まえ、総合評価の下から4行目以降、「成果指標の～成果に結びついていない部分もあります」の中に組み込むなど、何らかの記載が必要ではないか。
171	6-1-2	教育環境の充実	「3. 市民実感性による判定」	○市民実感性について、この設問は市民全般を対象にした場合と、子育て世代(30～40代)を対象とした場合では、実感が異なってくるのではないかと。クロス集計を行い、子育て世代の実感性についても記載してみてもどうか。
172	6-1-2	教育環境の充実	「5. 施策の総合評価」	○3～4行目に「学校施設の耐震化は、…100%となっています」とある。ハード面の話で言えば、確かに耐震化は進んでいると思うが、学校施設における空調や断熱性など、実際の子どもの教育環境に学校間で格差があると感じているので、施策の目標である「子どもたちが生き生きと学ぶことができる教育環境」の実現に向け、さらなる教育環境の整備に努めていただきたい。
172	6-1-2	教育環境の充実	「6. 施策の課題と取り組み方向」	○今後の取り組み方向に「合理的配慮」とあるが、一般的な言葉ではないと思われるので、わかりやすい表現とする必要がある。
176	6-1-3	高等学校教育の推進	「5. 施策の総合評価」	○「教諭のインターンシップ」とは、具体的にどのようなことをしているのか？
188	6-2-2	芸術・文化の振興	「2. 成果指標の実績値に対する考え方」	○「鑑賞事業の入場者数」について、H21からH23にかけて、急激に実績値が下がっているが、その要因は何か？
194	6-2-3	スポーツの振興	「6. 施策の課題と取り組み方向」	○課題に「オーバルにおけるスケート利用者数は増加傾向にある」との記載があるが、具体的な数字を加えると、より伝わりやすくなるのではないかと。

平成27年度 第2回 帯広市総合計画策定審議会における主なご意見

別紙

ページ	施策		区分	主なご意見
200	7-1-1	人権尊重と平和な社会の形成	「6. 施策の課題と取り組み方向」	<p>○「保護者が精神疾患等を抱えていることなどにより、不適切な養育が世代間で連鎖している家庭では、支援に対して強い拒否反応を示す…」との表現は、精神疾患を抱えている保護者の全てが不適切な養育をしているかのような印象を与える。また、精神疾患等を抱える保護者より、むしろ、健全な環境で育ってきた保護者の方が世間体を気にして支援を拒絶する傾向にあるのではないかと懸念される。</p> <p>○DVや児童虐待について、関係機関との連携を密にし、情報共有をはかることで、問題に素早く対応することについて、取り組みの方向に記述してはどうか。</p> <p>○DV被害者の一時保護施設であるシェルターの利用条件が一般には明らかになっておらず、また、利用に際して多くの制限がある。シェルターの存在について周知を図るとともに、使いたい人が使える仕組みとしていただきたい。</p>
208	7-1-3	ユニバーサルデザインの推進	「5. 施策の総合評価」	<p>○6行目に「UDの考え方を取り入れた各種公共建築物の整備などを進めており」とあるが、平成13年度に示された「UDに基づく公共建築物設計の考え方」について、時代に即した改定が必要と考える。</p>
232	8-1-2	自治体経営の推進	「6. 施策の課題と取り組み方向」	<p>○課題に「歳入における自主財源比率」とあるが、市民にとって一般的な言葉ではないので、わかりやすい表現にするか、注釈を付ける必要がある。</p>